

〔駐村研究員だより〕

国際交流と『人生の清算』

よし ざわ きみお
吉 澤 喜美男

還暦もとっくに過ぎ、古希が近づくにつれ、私の人生もぼつぼつ清算の域に達した。「人生の清算」とは、借りたものを返すということである。

マクロ的に考えると地球に生を受けてこの方、地球環境は大きく様変わりした。「兎追いしあの山、こぶな釣りしこの川」のふる里もその原型を見ることは少ない。幸運にも私は、牧畜に携わっている立場上、地球にはそう借りは作らなかったと自負している。

しかし国際的な視点でみるとそうはいかない。隣国の韓国、中国に限ってみても、かなりの借りを作ったことは歴史的事実である。とりわけ、私は中国に青少年義勇軍として少年時代を過ごした経歴を持つ。

五族協和、王道楽土の建設の美名の下に渡満したもの、結果として加害当事者となり、自責の念一入である。したがって、私の生きている間にこの借りを返したいと願うのが当面の課題である。

昨年私は、引き揚げ後初めて、50年振りで訪中の機会を与えられ、益々その感を深めるとともに、具体的な方途も見えて来た。

日本の東北が日本の食糧供給（生産）基地であると同様、中国の東北（旧満洲）もまた中国の食糧供給基地として立地している。さらに、中国の農業事情は、中国国内はもとより、日本、ひいては全世界の食糧問題にも、連動、波及する要素をはらんでいる。

そのかなめの中国の東北と日本の東北ががっちり手を握り合って、相互の農業を振興することは、地球的観点からも意義あること

と考える。

まず身近なことから手をつけるとすると、友好姉妹都市（雫石町と黒竜江省のある県市）の実現、次代を担う青年の交流と続き、最後にその友好の証としての極めつきは血をつなげることである。

いま中国では、人口増加に悩み、人減らしに躍起になっている。日本ではこれと逆の現象になりつつある。特に農村での結婚難は大変である。当雫石町でも、農家の伴侶不足は400人にも達している。

この担い手の嫁問題と農家負債は、地域のみならず、日本農業にとっても大きな課題である。

中国では一人っ子政策が徹底していて将来大きな社会問題となることは避けられまい。そのとき、日本に嫁いできた女性の子供達は「高度な農業技術を身につけた立派な青年」に成長しているはずである。そのうちの一人位ずつは、それぞれのお母さんのふる里へ行って、本格的な農業のお手伝いができれば、幸いであると考えている。

もしもこのことが実現できた暁には、私の人生の借りを完全に償うことになると思う。そして、雫石町に対しても50年の借りのいくばくかは清算できるようにと願っている。

以上申し述べたことは、私の単なる白昼夢ではない。昨年訪中の折り黒竜江省の幹部と非公式的で個人的な話題として話し合った経緯もある。地元雫石町でも前向きに理解して下さり、今般（平成8年9月25日）中国黒竜江省に向けて、助役を筆頭に各関係機関代表6名が出立することとなった。試験研究機関でも、農業技術支援に協力をしていただくことになっている。

中国問題が軌道にのったら次は韓国と国内の拠点都市との交流である。これ等についてもそれぞれのルートのメドはついている。

（岩手県岩手郡雫石町・農業）